

「算数の楽しさを伝え得意科目に」

中学受験

今回私は小学 6 年生の算数を担当しました。担当し始めの頃は本人が「算数が苦手であり、他教科への勉強意欲はあるが、算数に対してあまり意欲が湧かない」と発言していました。

そこで私はまず理解とインプットに重きを置いた勉強時間の確保を行い、算数のパズル的な楽しさを伝えることを通して、生徒の算数に対する勉強意欲を他教科と同等まで引き上げることを目標としました。具体的な指導内容としては、本人の希望に沿って、日能研の授業の復習を行いながら、何故そのような操作をするのか、どこからそのような発想をしたのかを伝えていきました。最終的には算数の中でも得意な単元が生まれ、受験直前ということもあり、よく集中して算数に取り組んでくれていたように感じています。

長々と綴ってきましたが、合格はひとえに生徒本人の努力の賜物であり、よく頑張って合格を掴み取ってくれたと思っています。

S 教室指導者 F さん

「個別指導だからできる寄り添った指導」

中学受験

今回は小学 6 年生の国語を主に担当しました。夏期講習以降は、記述力の育成を中心とした問題を扱い、冬期講習以降の入試が近づいたシーズンでは志望校の過去問を中心に扱いました。

国語は私が他の教科と比較して指導が難しいと感じていた科目でした。ですので指導の際には、まずゆっくり確実に読解を進め、生徒自身が自分の力で答案を作成できるようにすることを心がけました。

このように生徒と綿密にコミュニケーションをとり、生徒からのフィードバックにより、柔軟に指導方法を変更できる個人指導の強みを生かすことで、国語という指導が難しい科目でも生徒に寄り添った指導ができたと思います。

K 教室指導者 G さん

「やれることをやりきった指導」

中学受験

中学受験に向け毎週指導を続けてきた。プレッシャーは特になかった。むしろ他の子達と比べやるべきこと、課題点、秋からは志望校の過去問と私達がやる事が明確であったので、桜を満開に咲かせるためにやれることをやってきたつもりだ。毎年のように出る図形問題を一か月間ずっとこなしていたのも

今となっては良い思い出だと振り返られる。

ただ、受験期間となると話は変わってくる。なんとなく緊迫した雰囲気教室中がなり、未知の体験に怯える生徒達を見ると、こちらまで嫌な思いになる。経験者であるからこそ、当日の気持ち作りややるべき事を伝えられはするが、代わりに受けてあげられるわけではない。担当であろうとなかろうと良い結果が出ますように、と1月31日にお賽銭を入れたものだ。

受験結果は聞いていない。どこかには受かっているはずだ。ユリウス以外に沢山勉強している結果が合否に表れていると思うがそれを見て自分の実力不足を目の当たりにしたくなかったからだ。せめていい中学生活をしてほしいものだ、と英語を教えながら呟いた。

K 教室指導者 M さん

「一人ひとりに合わせた個別指導」

中学受験

主に秋頃から、冬期講習までの期間では多くの受験生の生徒を指導しました。最初は、学習のレベルのみを考慮していたのが、同じ生徒を何回も担当していく中で、その生徒の癖や効果的な学習方法、得意、不得意などを考慮した指導が徐々にできるようになったと思います。特に12月以降の指導では、1人1人の志望校の出題傾向に沿って、演習が最も必要な単元を扱いました。そのうえで、ヒントや直前の問題を見ずに、1人で解くことができるようにするなど、本番を想定することが大切であると改めて思いました。精神的に焦りや不安で苦労している生徒に明るい声かけや前向きな指導で最後まで諦めずに勉強するサポートをすることも重要ということを実験前の緊張感のある生徒を見て、実感しました。

K 教室指導者 I さん

「正解不正解だけではなく考え方を指導」

中学受験

小学6年生を担当して最も重視したことは根本的に理解できていない分野を発見し、考え方からしっかり学んでもらうことです。とくに算数においては表面的に式ややり方を覚えてしまっていて、何をやっているかは理解できていないということが多くあります。国語でも、雰囲気解いてしまっていて何に注目すべきか、自分が何を考えているのかを理解していないことがあります。これらを放置してしまうと、少し難易度が上がった問題や、ひねりが加わった問題で何から手をつけていいか分からなくなってしまう。入学試験で最も大切なのは簡単な問題を漏らさず取ることですが、個別指導をする一番のメリットは問題の正解不正解、点数だけではわかりにくい部分を改善できることだと思います。自分ではわかりにくい考え方の部分が向上することによって、解ける問題の基準が上がっていったと思います。計算ミス、ケアレスミスなどと一緒にされがちな理解不足による「変なミス」が減らせたのではない

かと思います。受験だけでなく今後にも生きる内容であつたらうれしいです。

S 教室指導者 F さん

「苦手問題を何度も何度も解いて練習」

中学受験

彼女の小学 6 年 5 月～受験まで担当しました。5 月の段階では、彼女は受験で使う算数が苦手な様子でした。計算は確実に正解していましたが、文章題は問題文を読むので精一杯でした。教科書や副教材で似ている問題を探し、解けるようになるまで何回も同じ問題を解くことをしました。夏期講習の頃には全分野の基礎を自力で解けるようになりました。入試問題を解くとなると最初は鉛筆が進みませんでした。解き方を考え、書くということが回数を重ねるうちに出来るようになりました。彼女は受験日前に会った時、とても緊張していました。私は普段通りに接し、見送ることしかできず、後悔しました。なので、合格した連絡を頂いた時は本当に嬉しかったです。その後、合格報告を直接して頂きました。「先生に出会えてよかったです」と言ってくれて、一緒に励んでこれたことを誇りに思います。

S 教室指導者 S さん

「個人にあったプログラムで土台作り」

中学受験

今年は受験生 1 名の算数を担当しました。ユリウスのみ通っている生徒だったため、日能研の補習的な進め方でなく、計算の習慣化、小 5 範囲の基礎的な部分から、土台作りをしていきました。飲み込みが早い生徒だったため基礎を教える部分で苦労することはあまりありませんでしたが、ユリウスに週 1 コマという時間の制約の中で演習量を確保するのが大変でした。また、第一志望校の算数が応用レベルの問題で構成されており、基礎問題を解くだけでは足りない、というのも時間不足を感じた理由の 1 つでした。

そのため、全分野の基礎学習のあとは、志望校の頻出分野のみに絞り、応用問題を扱うことで、対策をしていきました。結果、過去問演習の際には合格最低点を超えるなど、成果が見られたと思います。惜しくも第一志望校の合格は逃してしまいましたが、同じ問題を何度もくり返し解いていく中で、出来る問題が増えていったことで、本人も成長を実感していると言っていました。やはり基本の反復は大切だと私自身も強く感じました。

中学進学後も、中学受験でも学びを活かしてもらえると嬉しいです。

S 教室指導者 Y さん